

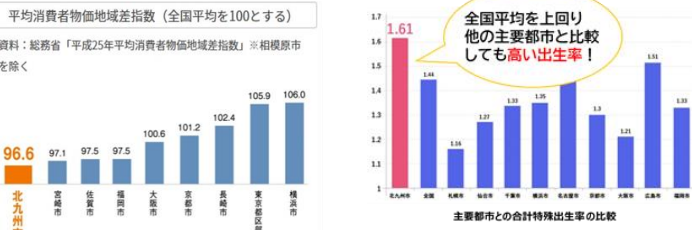
# 地域通貨“縁”を使った共助の可視化プロジェクト

北九州“縁”結び隊

## ①北九州市の課題と現状

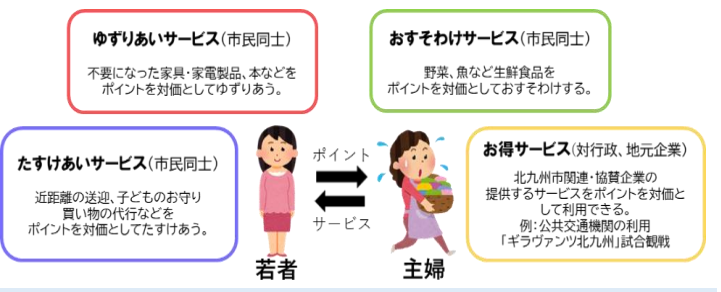


【現状】北九州市は出生率も高く、既に「住みやすいまち！」である。  
 →【課題】But)市民の潜在的なニーズや活動が可視化できていない

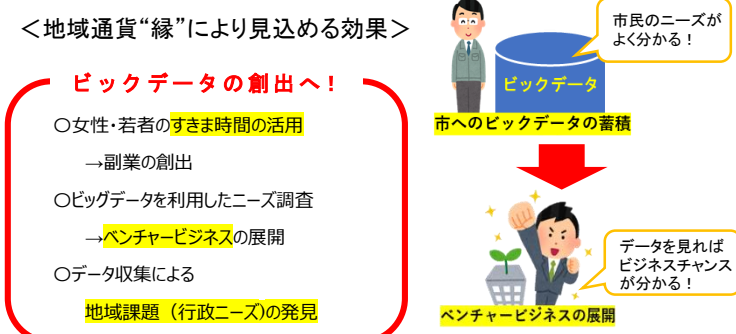


## ③地域通貨“縁”の仕組み

＜フィンテック×シェアリングエコノミー＝Society5.0＞  
 シェアリングエコノミーの関係性は「B to C」ではなく「C to C」の関係性であり、そこで互いに欲しいものを地域通貨をスマートフォンアプリで共有する仕組みをつくることによって共助を生み出す。  
 「必要なサービスを、いつでも、どこでも、誰にでも。」＝超スマート社会へ



▶ビックデータが形成されていくことで、ニーズ調査コストの削減に！  
 →ベンチャービジネスの展開へ!!



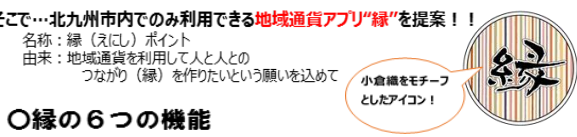
- 利用する理由の3点に注目!
- 安く買える → 現金の消費を少なくしたい! → 「地域通貨の利用」
  - 不要なものを売れる → 自分の使っていない時間や空間、モノ・スキルを活用したい! → 「シェアリングエコノミー」が有効!
  - 手軽さ → アプリを使用して相手のやり取りを手軽に! 気軽に! → 「フィンテック」が有効!

## ②アイデア提案

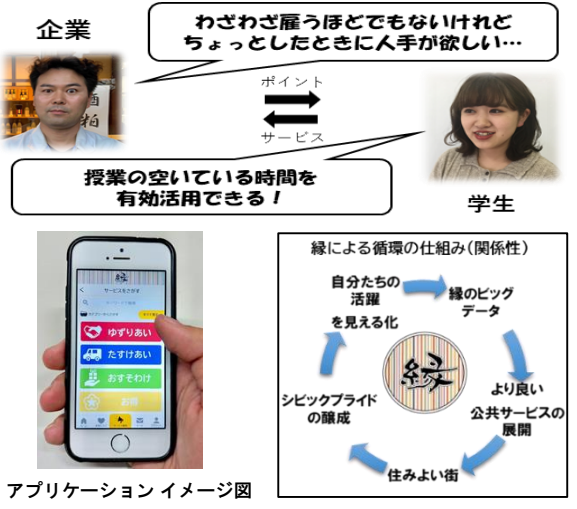
「地域通貨の利用」「シェアリングエコノミー」「フィンテック」の仕組みを埋め込んだ まちづくりの手法を生み出そう!!

◎若者と女性のニーズを満たせば、両者の利用率は上がるのではないかと!  
 →「シェアリングエコノミー」は「B to B」ではなく、あくまで「C to C」の関係性!  
 →人(市民)同士で互いにほしいものを共有する経済!  
 →地域通貨(縁ポイント)を利用すれば特定の地域内で地域通貨(縁ポイント)が循環する!

市民同士のたすけあい行動、つながり、ニーズ可視化。若者や女性がすでに行っている活躍の「見える化」をする。

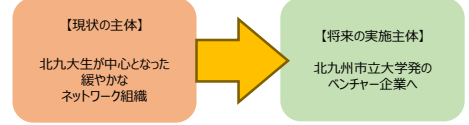


- ### 縁の6つの機能
- ①位置情報: サービス利用者と提供者の居場所がわかる
  - ②評価: 5段階で相手の評価ができる
  - ③マッチング: アプリ利用者とサービスの提供者をつなげる
  - ④ネットワーク: 人と人のつながりを可視化できる
  - ⑤決済: サービスの提供者に縁ポイントを選べる
  - ⑥プロフィール: アプリ登録者の情報をみることができる



## ④実現までのプロセス

- ・北九州市内10大学連携事業の「まなびとESDステーション」における共同研究事業として、アプリケーション開発を行う → 大学の研究の一環として行うことで、研究費から開発費を支出
- ・お金をかけずに労働力の確保が可能に! ← 地元企業も参入



★ポイントと現金との兌換性は無いため、仕組みを回すための原資は必要ない!